

はじめに

~~~~~ あなたの住むまちは、ひとにやさしいまちですか？ ~~~~~

あなたのおじいさんやおばあさんが、安心してまちへ出かけ、不自由なく買い物や食事を楽しむことができるでしょうか？

きつくて大変な階段や見えにくくて困る案内標示にとまどうことはありませんか？

車いすに乗った人や目の不自由な人が、段差の前で身動きできなくなったり、危険な目にあったり、外出先でトイレが使えずに困ってしまうことはないですか？

~~~~~ ユニバーサル・デザインはみんなのためのデザイン ~~~~~

人間はだれでも、よちよち歩きの幼い頃は親や他の人から助けられて育ち、やがて成長して自立します。さらに年齢を重ねれば、足腰は弱まり、視力や聴力、反射能力などは低下します。それが「ひとの一生」です。

これまでのまちづくりは、この「ひとの一生」の中でも最も元気のいい時期の状態に合わせて進められてきたといえるでしょう。

超高齢社会が到来するといわれています。このままではいずれ、私たち自身が階段やトイレを使いづらいものと感じるようになるでしょう。

しかし、階段に手すりがあれば安心ですし、さらには、エレベーターがあれば車いすの人や乳母車だって楽に上り下りできます。広めに作られたトイレならば荷物が多い人も赤ちゃん運れの人も、そして車いすの人も安心して使えます。

このように、みんなが安心して便利に使えるデザイン（設計や構造）のことをユニバーサル・デザインといいます。

いま、なぜ「福祉のまちづくり」なのか、それは未来の佐賀をだれもが安心して幸せに暮らすことができる県へと変えていくためです。

いろんな人が利用する施設をつくるときには、だれもが使えるユニバーサル・デザインを心がけることが大切です。

さあ、みんなで福祉のまちづくりをはじめましょう。

平成17年 佐賀県